

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	3271500278
法人名	あかぎ福祉会
事業所名	あかぎファミリーケアセンター まんてんの家
所在地	島根県飯石郡飯南町下赤名1919番地1 (電話) 0854-76-9330

評価機関名	NPOLしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地STICビル		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価結果確定日	平成19年9月3日

【情報提供票より】(19年7月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	9人	常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算	7.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋造り平屋建て275㎡ 木造平屋建て38㎡ 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0円	その他の経費(月額)	光熱水費500円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要(7月3日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4			
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 86.7歳	最低	71歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯南病院 ・ 来島診療所 ・ 和田医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間地域の慣れ親しんだ建物で職員も利用者も顔見知りで「その人らしいやすらぎのある生活の場をめざす」理念のもとに信頼関係が築かれており、日常的な外出支援や手作業などを楽しむ様子など利用者のおだやかな暮らしぶりがみられた。町の元保育所を活用したNPO法人による1ユニットのグループホームであるが地域密着型の施設としての充実発展が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域への理念啓発のためにパンフレットを広く配布し、子供向けの設備は高齢者向けに整備されている。緊急時の対応についての研修会には、全職員が参加するようにしている。定期健康診断の支援や、苦情相談の外部窓口の明示などについては引き続きの取り組みを期待したい
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、パートを含む全職員で内容について検討し、職員会議などで話し合われている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、入居者、家族の代表や地域の関係者が集い、入居者の状況、サービスの実態や地域との関係向上などについて話し合われており、会議の定着と充実が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの玄関に意見箱を置いたり、家族の面会時や行事の機会に意見を聞き出す努力をしているが意見が少なく運営に反映するまでには至っていない
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設が行う、行事や防災訓練などに地域住民が参加し、入居者とふれあいをもったり、入居者や職員が近隣の学校やお店に散歩やドライブなど積極的に出かけるなど互いの交流が日常的に行われている

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の自然や人間関係を認知症高齢者の良き環境ととらえ、独自の理念がつけられている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時には理念を読み上げたり、職員会議において話し合うなど入居者の認知症について理解するとともに人柄を大切にケアが出来るよう心がけている		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校や老人会など地域の行事に職員や利用者が参加するとともに、事業所で行われる季節ごとの催しに地域やゆかりの人々が参加したり、野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している	○	さらに、7月には12人の中学生が施設で利用者と交流し、8月には中学生の介護実習を予定しているなど、地元の子供達との交流も期待される
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はパートを含む全職員で内容を検討して取り組んでいる。外部評価についても、洗面所の使いやすさや居室のプライバシー確保などについて職員全員で検討し改善している	○	さらに評価を年間計画に位置づけ余裕を持った取り組みが望まれる
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、保健センター、町職員などや利用者、家族代表などが集い、利用者の状況やサービスの実際について話し合っており、これまでは2ヶ月に1回実施していたが3ヶ月に1回の開催に変更された	○	継続的な議題で話し合い、2ヶ月に1回の開催が望まれる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の管理者や職員は、市町村や社会福祉協議会のOBや地元の人が多く、現担当者とも日常的に行き来している		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	1ヶ月に1回、利用者の暮らしぶりを家族に報告し、園だよりを年に4回送るとともに、受診時や変化時には電話で随時報告している。必要に応じ訪問して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や行事で家族同士ふれあう機会、家族の訪問時に職員から意見を求めたりするが、家族からの意見や苦情はなかなか出てこない状況である	○	外部の苦情窓口の明示や、言いやすい雰囲気づくりなどひきつづき運営に関する家族からの意見を引き出すような取り組みを期待したい
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際には、新入職員は1ヶ月間見習い期間としてなじみの職員とともにケアをすることで、交代による利用者のダメージが軽くなるよう配慮している		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、パートを含む全職員が取り組めるよう配慮されている。また、職員の状況に応じて、研修の開催地や内容などが選択できるよう配慮されている		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の事業所間での会議や交流会には、管理者、職員ともに出席して、交流を図っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には施設の見学や説明を納得がゆくよう行っている。また、入居直後には、家族の協力を得て家への外泊や、外出を重ねながら施設になじめるよう配慮している	○	入居前の通いや泊まりなども出来るような取り組みを期待したい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	近くの畑の作物の作り方を利用者から教わったり、節句ごとの料理などを一緒に考えたり、作るなど、相互にささえあう関係作りがみられる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅の訴えをする利用者や自室にとじこもりがちな利用者に対しても、好きな趣味や外出先など一人ひとりの希望をききながら生活を支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者や本人・家族が集って介護計画を立てる取り組みが見られ、個別なものになっている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、ほとんど全職員の情報の共有のもと、変化に応じて計画も立て直され、毎月のモニタリングも行われている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診の送迎や、本人の家やゆかりの地などへの外出支援など柔軟に対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのなじみのかかりつけ医に受診できるよう支援している。毎月1回以上は受診か往診などが確実に行われている	○	さらに、毎年の定期健康診断を利用者全員が受けられるような取り組みを期待したい
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居当初から、重度化したときの対応については、家族などとよく話し合っている。医療的処置などが増えて対応できないときは入院できるよう医療機関とも話し合いを行っている	○	看護職員体制の充実などで、引き続き医療機関との連携の下、終末期の看取りなどへの取り組みを期待したい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄援助時の利用者への声かけは、耳元で話し、他の利用者にはわからないよう配慮したり、個人情報部外者に口外しないよう取り組まれている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活の中で、食事にまつわる役割が利用者それぞれに自然に生まれ、自分の役割をいきいきと行う姿とそれを見守りながらさりげなく手を貸す職員の姿がみられた		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあったその日の献立について、利用者同士の会話がはずみ、和やかな雰囲気がみられた。ゆっくり食して、再び、利用者がすすんで片付けをしている		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、お風呂を沸かし、ひとりひとりに声をかけながら、希望に応じた入浴が午後から夜にかけて行われている。	○	入浴を拒否する利用者に対してもさらに工夫をかさね、根気よく声かけを行っていただきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴からくる、かつての職業(農業、建設、主婦)になじみのある特技を生かすような働きかけがみられ、畑での作業や家具作りなどを行ったり、普段の会話の中で外出先の希望を話したりしている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に出かけ、野菜をとったり、近くの店に日用品やおやつなどを買いに出かけたり、近くの中学に散歩にゆくなどそれぞれの利用者ごとに日常的に外出の支援が行われている		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで、自由な暮らしを見守っている		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所には非常警報装置があり、地域住民とともに火災訓練を行うなど、非常時の連携にそなえている。食品の備蓄もしているが、飲料水や生活用品の備蓄はしていない	○	さらに飲料水や生活用品の備蓄を行うことで、非常時に備えるよう期待する

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は調理師が利用者の希望を聞きながらつくり、町の栄養士から指導を受けている。食事や水分の摂取量を個別に記録し、栄養改善に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂とつづきの部屋でゆっくり談話しながら手作業したり、玄関口のベンチで昼寝をするなど利用者のくつろげるような様子がみられた。廊下には風が吹き渡り、光とりも適切な工夫がみられた		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳が敷かれており、冬にはコタツがお目見えするとのことで、寒い地域になじんだ家具の利用がされている。利用者同士居室を訪問することもあり、個別の配慮がみられる		